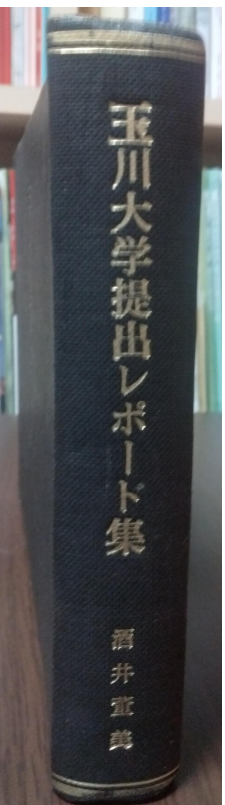


エッセイ（令和8年8月26日記）

玉川大学通信教育の思い出

酒井 董美^{ただよし}



昨日（令和8年8月25日）、神奈川県厚木市の西勝海氏から手紙をいただいた、西氏は筆者と同じ、玉川大学通信教育を受講した仲間で、最近ま

で卒業した者で作る同窓会である「芳友会」の会長だった方である。同封された文書のタイトルは、

通信教育。課程で培われた生涯学習意識の形成

―卒業生が振り返る玉川大学通信教育での学び―

このようになっていた。そして通信教育で卒業した者は、昨年（2025年）の3月で延べ1万人を越えたと記されていた。以下は西氏の文書から離れるが、筆者の思い出について記しておきたい。

筆者は島根大学教育学部中学二年課程を終えてからの玉川大学三年編入だった。

1965年（昭和40年）4月のことである。それから5年かかって1970年3月に卒業したのであった。平素は中学校に勤務しながら、通信教育でテキストを読み、課題のレポートを書き、4単位の科目ならば、4通のレポートが合格すれば、単位試験を受験す資格が与えられ、試験に合格すれば単位が取得できる。その積み重ねの後、卒業論文を書き、それが認められて卒業諮問があり、卒業することになる。ちなみに筆者の卒論のテーマは、「鬼ごっこの研究―祖霊と子供との関係―」であった。内容的には民俗学的なものであり、筆者の自信作である。昭和40年代のいつだったか。日教組島根県研究大会で発表したところ、島根県代表になり、確か岐阜県で行われた全国大会で発表し。絶賛を博したことがあったのも思い出の一つである。

右の写真は、玉川大学通信教育で書いたレポートを製本化した背文字の部分である。A4変形判で400字詰め286ページになるが、科目としては、経済学、教育原理第一部、日本教育史、西洋教育史、教育哲学、哲学研究、印度哲学史、中国哲学史、西洋哲学史、社会学。以上の科目の提出レポートの返済されたものを、記念に製本しておいたのである。今思い返して眺めても懐かしい。

筆者の玉川大学での学習は、通学生ではなく、通信教育生である、しかし、夏休みの期間にはスクーリングがあり、町田市にある玉川大学で学ぶことも出来る。筆者は2回ばかり、スクーリングに参加したが、全国から集まった仲間たちがいて、和気藹々で、学習成果が挙げた。寄宿舎や民家に下宿しながら、スクーリングに励んだものだった。

西勝海氏の原稿には、筆者についても細かく紹介してくださっており、恐縮するばかりであるが、この文章を読ませていただいたおかげで、玉川大学通信教育を思い出し、60年前の若かった自身を回想する気持ちになった。現在91歳の筆者であるが、生涯現役で精進しようと決意しているところである。（玉川大学学友会島根支部長）